

せる漢籍に就いて」の演題のにも二時間に亘る講演をせられ古代の研究には圖書目録の必要なること及び圖書目録を作るこそれ自身がすでに學界への貢獻であることを論ぜられた講演後茶話會を催した尙當日は(幕末より明治時代に亘る大谷派史料の展觀があつた中にも北海道開拓一條手續や廢佛棄釋の史料の如きは甚だ珍しいものである。

□九月廿九日午后三時から五時まで第八教室で史文會例會を開いた橋川正教授は今夏の史料探索旅行について述べられた時間は約二時間演題は「北陸より山形まで」。(丹羽)

### 哲學研究室報

□本研究に於ては本誌前號にも記載せる通り學會を創設しその發會式を兼ねて第一回例會を六月十一日午後六時より第五教室に開く、當日は本學教授、職員學生多數の來會あり講演後會議室に於いて西田教授を中心にして宗教、哲學の問題につき談話會をひらき十時閉會せり當日講演左の如し。

宗教哲學につきて

文學博士 西田 教授

□九月三十日午後六時より本用例會を左の如く開き、木場、安富、寺本、諸教授の參會ありたり。聖徳太子の思想について 井上 教授

### 最近佛敎研究論文一覽

□十月二十三日午後六時より本月例會を左の如く開き、務臺、木場、若栗、金子諸教授沼波主幹、其他學生多數の參會ありたり。

カントの transzendentaler Gegenstand = x - 1. affekt. werden について 文學士 木村 教授

□尙本學教授安富成中氏は社會學研究の爲め佛獨に留學を命ぜられ十一月下旬故國を出帆の都合にて、その後任として文學士五十嵐氏就任せられ社會學科を擔任せられることゝなつた。ここに兩教授の送迎を附記するに當つて兩教授の多幸に本學社會學科の前途を祝するものである。(達)

### 最近佛敎研究論文一覽 (大正十三年自五月至九月)

#### (A) 源 典

洞上安心起行文	岡田 宣法	第一義	二六〇六
數異鈔の體制についての私見	梅原眞隆	龍大論叢	二五七六
治病大小權實異目略註	小林 一郎	法華	一七〇四
撰時鈔抄出略註	小林 一郎	法華	一七〇八
傳通記と觀門要義鈔	今岡 達音	佛敎學	一〇五
往生傳に就いて	小酒井儀三	歴史と地理	一四〇一
祕密經典翻譯史	塚田 洪憲	第一義	二八〇五、六、七

愚管抄の著作年代についての疑

津田左右吉 思想

焼失せる蒙滿文藏經

内藤虎次郎 藝文

親鸞聲人の自然法爾章を讀む

伊藤證信 愛聖

朝鮮佛教史

李能和 朝鮮史講座九、十、十一、十二

觀世音菩薩

大谷 光瑞 大乘 三ノ五、六、七

親鸞聖人の淨土七祖觀

脇谷 攝謙 大乘 三ノ五、六、八、九

一切衆生悉有佛生

大谷 光瑞 大乘 三ノ八、九

般若心經に基ける佛教概論

岡田 宜法 第一義 三ノ六、七、八、九

叡山の圓戒と永平の禪戒

清水 梁山 第一義 二六ノ八、九

天台の五重玄義に就いて

伊藤 義賢 龍大論叢 二五、二六

本佛に就いて

藏内 久隆 法華 二ノ四

本尊に於ける教順逆種脫の諸問題

高田 惠忍 法華 二ノ八

發心義

二宮 守人 山家學報 九

日本佛教史上に於ける兜卒西方兩思想の胚胎

今津 洪嶽 山家學報 九

三種法華論

澁谷 亮泰 山家學報 九

假受小戒について

村上 圓壽 叡山宗教 五ノ五

佛凡一龍

岸野 觀濤 叡山宗教 五ノ五

智證大師の教義

梅田 圓鈔 叡山宗教 五ノ九

湛然の唯心緣起と佛性論

梅田 龍月 叡山宗教 五ノ八

無我論

手島 文蒼 哲學研究 九ノ六

日蓮教學の原理

本多 日生 倫理講演集 七

禪と般若

鈴木 大拙 宗教と思想 五

光明と名號

佐々木月樵 教化 五

非行非善

伊藤 大忍 教化 五

歸の御字訓に就いて

喜多山稱善 教化 五

誓願と名號

柏原 祐義 教化 九

雜部密教の研究

上田 進城 密宗學報 一三〇

五佛の研究

妻木 直良 龍大論叢 二五、二六

大乘非佛說論の歴史

稻垣 最三 大乘 三ノ九

佛敎は果して厭世主義か

増永 靈鳳 第一義 二六ノ六

悟に就いての考察

渡邊 棟雄 第一義 二六ノ八、九

佛陀と善惡の問題

羽溪 了諦 宗教研究 一ノ一

佛敎の中心觀念

道敎と眞言密敎との關係を論じて修驗道に及ぶ  
小柳目氣太 哲學研究 四〇

佛敎道德に就いて

眞宗學の將來  
常盤 大定 倫理學講演集 十

眞宗學の將來

金子 大榮 宗教と思想 七

境遇は業報か

赤沼 智善 宗教と思想 九

信の絶對性

花山 大安 教化 五

無碍の一道

赤沼 智善 教化 五

信の開顯

坂埜 良全 教化 六

歡喜と欣淨との問題

種村 義淵 教化 八

信仰の本源

寺西 惠然 教化 九

誠愼教諭

御橋 義海 教化

六

(C) 教會史

日本曹洞の獨立と高祖の傳戒大久保道舟

第一義

二六ノ五

支那佛教事情

木村 泰賢

宗教研究

一ノ一

眞宗史要妄評

牧野信之助

歴史と地理

四ノ二

百萬遍知恩寺

伊藤 祐晃

歴史地理

四ノ二

印度に於ける佛教再興の偉勳者

木村 龍寛

宗教と思想

九

戒壇に就いて

未廣 照啓

山家學報

九

(D) 傳記

海東華嚴初祖義湘大徳の事蹟及び教義

今津 洪嶽

觀想

四

日蓮聖人の十大徳

北尾 日大

法華

一ノ六、七、八

尋尊僧正と時勢

牧野信之助

史林

九ノ三

佛滅年代論

宇井 伯壽

現代佛教

一ノ三

道元禪師俗系の研究

大久保道舟

第一義

二六ノ八九

聖徳太子傳の研究

橋川 正

歴史と地理

三ノ五、六

蓮社高賢傳に對する疑義

佐々木功成

龍大論叢

二五、六

拾聖一遍に就いて

高千穂徹乘

龍大論叢

二五、六

道元禪師の疑者

兄玉 達重

第一義

二八ノ六、七、八、九

(E) 藝術・地理・考古學

肥後大慈寺弘安十年の鐘及び永仁五年の法華書寫塔

一四ノ七

稻村 坦 考古學雜誌

一ノ五

古代クツチャーの佛教美術

望月 信成 佛教學

一四ノ九

津金寺石塔其他

天沼 俊一 考古學雜誌

一ノ一

佛像圖彙 版の次第

三村清三郎 佛教學

一四ノ一

高野山金石圖説を讀む

魚澄惣五郎 歴史と地理

一四ノ一

(F) 雜論

人間としての法然

三浦 周行 藝文

一五ノ八

正信偈を憶持しつゝ

金子 大榮 成同

七ノ八

教祖の人格に關する觀念

姉崎 正治 宗教研究

一ノ一

近代に於ける宗教研究上の一革新

矢吹 慶輝 宗教研究

一ノ一

釋尊說法の言葉に就いて

于瀉 龍祥 宗教研究

一ノ一

析伏より忍伏へ

常盤 大定 宗教研究

一ノ一

富永伸基の佛教研究法

内藤虎次郎 龍大論叢

二五、六

ウエルスの佛教觀批判

小野清一郎 現代佛教

一ノ二

一切經全體を文學とみて

小野 玄妙 現代佛教

一ノ二

七里老師語録を讀む

鈴木 大拙 宗教と思想

六

念佛と芬陀利華

内田 寶麟 教化

五ノ六

維摩と佛弟子

柏原 祐義 教化

五ノ六

尊稱愚禿觀鸞の意義

山上 正尊 教化

六

最近佛教研究論文一覽

二七三

五九三